

入居して出会った川柳が楽しくて 仕方ない。自分も明るくなった気がする

大阪へゆつゆの里

新谷清子様(73歳) 平成30年10月 一人入居

子供たちからパワーをもらった 教員生活

高校時代は好きな英語を活かし、中学の英語の先生になろうと思いましたが。和歌山大学の教育学部を卒業する時、大阪と和歌山で教員の募集がありました。小学校の方が面白そうだし実家も近いと考え、和歌山を選びました。以来29年



「ドア個展」の前で入居者と談笑 (左が新谷様)

間の教員生活をしました。主人と結婚して泉佐野に家を建てた後は、そこから和歌山まで通勤しました。私は子供が大好きで、クラスの担任になった時は、子供からパワーもらつて、どんなにへとへとになつても楽しかった。専門的に障害児教育を勉強したいと、母校に一年間の内地留学をさせてもらった後、障害児教育に8年携わつたこともあります。障害のない子供達との「交流学級」をしながら、一人ひとりの個性を伸ばしてあげるのものはものすごく楽しかった。

目の見えなくなる 不安と戦つて

母が大手術の後に要介護状態になつてから、恩返ししたいと退職し10年の間お世話をしました。65歳になると次々に病が押し寄せ、67歳の時に目まいで入院。それが真剣に将来を考え始めたきっかけです。子供が守口に住んでおり、大阪へゆつゆの里が自立型と聞き、見学と体験入居をしました。駅前が便利だし、入居者の方が上



との戦いでした。そうなれば車の運転も無理、一軒家の管理もできなくなり。かつての同僚だった友人が心配し「絶対に入居しないとあかん」と言つて背中を押してくれました。

主人の後押しと協力に感謝

主人は全く元気で、「自分はホームへの入居は考えられない」と言つていましたが、私が「迷惑をかけたくないのでホームに入居したい」と相談すると、「早く入つて安心した方がよい」と賛成し喜んでくれました。引越し準備では、主人は断捨離の荷物処分を手伝つてくれ、母の家の管理も約束してくれました。墓終いや仏壇の片づけのためにお寺さんで行き来するのは大変でしたが、主人のおかげで全てをやり切りました。

入居すると、スタッフが声かけてくれて、助けてもらえる安心感が日に日に増して来しました。不安はなくなり、それに毎日歩くようになって前より元気になるようになりました。

川柳が楽しい。 ドア個展も続けたい

入居してから、守口市役所に川柳のクラブがあると知り、ひかれるように行つてみました。20人ほどの人が詠みあつて、お互いに採点したり、産経新聞や朝日新聞へ投稿したりしています。

ほんとうに病気になる ずる休み

枝豆を押しだめなら
かんでみな

これらの私の川柳が産経新聞に載つた時には、入居者が声をかけてくれました。最初は五七五にするだけで精一杯。0点の時はシヨックでした。だんだんコツがわかつて来ると余裕ができ、今では人に共感してもらえる深みのある川柳を目指しています。テーマが出題されると、自分の人生経験からいくつも案を作る、それを練るのが楽しい。川柳に出会い仲間もでき、入居者とも仲良くなり楽しくて仕方ない。自分自身明るくなった気がします。

入居して始めたドア個展。健康や歴史など学んだことを一枚の紙に書いて、写真、川柳とともにお部屋のドアに貼りだすことを「ドア個展」と呼んでいます。はじめて、貼り出した時から見た人に喜んでいただけたのが嬉しくてこれからも続けていきたいです。